



林木遺伝子銀行110番

— 貴重な樹木の苗木の里帰り —

枯れそうな巨樹・名木等をさし木やつぎ木で増殖した苗木として里帰りさせるサービス

林木育種センターでは、林木のジーンバンク事業の一環として、高齢や被害等が原因で衰弱した天然記念物、森の巨人達百選やこれらに類する巨樹・名木等の中で、特に保存する価値があり緊急性が高いと判断された樹木を増殖して後継樹を現地に里帰りさせるサービス「林木遺伝子銀行110番」を行っています。

このサービスでは、樹木の所有者や地方公共団体等からの要請を受け、枯れそうな樹木から採取した枝をさし木やつぎ木の方法で全く同じ遺伝子を受け継ぐクローン苗を増殖し、数年程度育てあげて元の場所にお返しします。

これまでに、280件の要請があり、このうちの211件307本のクローン苗木が里帰りを果たしています(平成31年3月31日現在)。また、後継クローン苗木の一部は、林木遺伝資源として林木育種センターに保存され、研究材料として活用されています。このシリーズは、3回にわたって林木育種センター(茨城県日立市)、北海道育種場(北海道江別市)、東北育種場(岩手県滝沢市)、関西育種場(岡山県勝央町)と九州育種場(熊本県合志市)における「林木遺伝子銀行110番」の取組を紹介します。

「林木遺伝子銀行110番」の利用については、森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター HPの「遺伝資源の収集・保存・配布」(<https://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/iden/index.html>)をご覧ください。遺伝資源収集係(林木育種センター ☎0294-39-7000)にお問い合わせ下さい。



● : 里帰りした樹木の一例

石川県金沢市
国指定特別名勝兼六園「根上松」

北海道乙部町
林野庁指定森の巨人たち百選「縁桂」

岩手県滝沢市
市指定天然記念物「五龍のフジ」

東京都葛飾区
柴又帝釈天題経寺区保存木「瑞龍松」

熊本県阿蘇市
(旧)市指定天然記念物「産神社の杉」

台風で倒れた親木



国際交流のシンボル木・ローソンヒノキと 歴史を見てきたクロマツ

今回はまず、茨城県日立市にある林木育種センターが行った里帰りのうち、二つの事例を紹介します。

一つ目は、東京都立上野恩賜公園の「グラントヒノキ」です。この木は、アメリカ南北戦争(1861年～ 1865年)で北軍を勝利に導いたグラント将軍が、第18代アメリカ大統領を退任した後、1879年に国賓として来日した際に植えられたローソンヒノキです。樹齢が120年を超え樹勢が弱ってきたため、平成17年度に東京都から育種センターに要請があり、つぎ木で増殖した後継樹を、昭和21年から毎年開催されている「グラント将軍訪日記念献花式」にあわせて、平成19年5月に里帰りさせました。高さが40cmで里帰りした2本の苗木は、今では約5mまで成長し、これからの式典でもシンボルとして受け継がれるはずで

す。二つ目は、東京都葛飾区の保存木に指定されている葛飾柴又帝釈天^{だいきょうじ}題経寺の「瑞龍松」^{ずいりゅうまつ}です。このクロマツは、450年前には既にある程度の大きさに達していたとされ、200年前の江戸時代の絵図には、名前のとおり龍が天に上昇する如く、その樹形が描かれています。現在、松くい虫被害が北海道を除く地域で発生していることから、所有者である題経寺は、「瑞龍松」がいつ被害を受けて枯れてもおかしくない懸念していたようです。その備えとして、平成25年10月に要請を受け、つぎ木による増殖を行い、2本の苗木は、平成27年4月に行われた葛飾柴又帝釈天題経寺の花まつりに合わせて里帰りしました。

これまでに里帰りした樹木は、いずれも多くの人たちに長年愛され、また、敬われ大切にされてきた地域のシンボリックな存在です。地域で大切にされてきた樹木を守りたい、そのために後継樹を残したいというみなさんの気持ちに答えられるように、われわれは、人と一本の樹木をつなぐサービス「林木遺伝子銀行110番」に、これからも精一杯取り組んでいきます。



グラントヒノキ: ① 親木、② 後継樹の現況(令和元年)、③ 里帰りした当時の後継樹(平成19年) 瑞龍松: ④ 里帰りした当時の後継樹(平成27年)、⑤ 親木